オーディオ実験室収載

スピーカーアキュライザーの導入(25)
－アナログ対ディジタル(10)－

１．始めに

前報(24)に引き続き、アナログ音源とディジタル音源の比較を行ってみます。

２．スピーカーアキュライザーSPA-7 の試聴方法

スピーカーアキュライザーSPA-7 の設定条件は前報(2)に述べたとおりとしますが、ケーブルの接続条件を前報(14)のとおり替えています。

試聴音源はファリャの三角帽子に固定し、アナログ盤、CD、放送録画、STAGE+から選択します。

アナログ盤

LONDON SLC 1138

エルネスト・アンセルメ指揮スイスロマンド管弦楽団

CD

ドイツグラモフォン 429 181-2

小沢征爾指揮ボストンシンフォニーオーケストラ

ESOTERIC　ESSD-90016

エルネスト・アンセルメ指揮スイスロマンド管弦楽団

ベルリンフィルディジタルコンサートホール

ファン・ホ・メナ指揮ベルリンフィル

STAGE+

ロリン・マゼール指揮ベルリン放送交響楽団

グスターボ・ドゥダメルの指揮ベルリンフィル

３．スピーカーアキュライザーSPA-7 の試聴結果

アナログ盤は LP-12、CD は EMT981、ベルリンフィルディジタルコンサートホールは PC、STAGE+は PC 経由で再生します。

アンセルメ指揮スイスロマンド管弦楽団のアナログ盤は、1961 年録音の名盤とされ、しばしばオーディオチェック用としても試聴対象にしてきました。改めて聴いてみましたが、打楽器や拍手の音の立ち上がり、金管の迫力、ベルガンサのステージ後方からの歌唱を含む広大なステージ感は十分です。

小沢征爾指揮ボストンシンフォニーオーケストラの CD は、1977 年の録音で、かなり鮮度感がありますが、ややアップテンポで急ぎすぎのような演奏です。ベルガン

サはアンセルメ指揮スイスロマンド管弦楽団のアナログ盤と違って、オーケストラの前に来ています。
アンセルメ指揮スイスロマンド管弦楽団の CD は、上記アナログ盤と同じマスターからのリマスターものです。以前と違ってアナログ盤に近寄ってきていますが、鮮度感はアナログ盤に及びません。
メナ指揮ベルリンフィルのベルリンフィルディジタルコンサートホールは、これもしばしばオーディオチェック用として試聴してきました。改めて聴いてみますと、アナログ盤に劣らず、音の立ち上がりやステージ感は申し分ありません。
マゼール指揮ベルリン放送交響楽団の STAGE+は、予想外にクリアーで、CD に劣らない音質です。
ドゥダメルの指揮ベルリンフィルの STAGE+は、2010 年のジルベスターコンサートで、全曲ではなく抜粋の演奏ですが、ディテールの再現やステージ感も十分です。
ベルリンフィルディジタルコンサートホールやこれらの STAGE+の音源は、随分とアナログとの音質の差を詰めてきている印象です。

４．まとめ

収録年代と音源の種類と再生ルートが異なる音源が、一様にスピーカーアキュライザー導入以降、音質が向上し、アナログや STAGE+の古い音源もフレッシュな印象で聴けるようになっていますし、STAGE+の音源もアナログに迫る音質で聴けるようになっています。

以上